

駒岡清掃工場更新事業
計画段階環境配慮書

(要約書)

平成 27 年 6 月

札 幌 市

目 次

| | ページ |
|---|-----|
| 第 1 章 事業者及び事業の概要 ----- | 1 |
| 1. 第一種事業を実施しようとする者の名称、代表者の氏名及び主たる 事務所の所在地 ----- | 1 |
| (1) 第一種事業を実施しようとする者の名称 ----- | 1 |
| (2) 代表者の氏名 ----- | 1 |
| (3) 主たる事務所の所在地 ----- | 1 |
| 2. 事業の名称及び種類 ----- | 1 |
| (1) 事業の名称 ----- | 1 |
| (2) 事業の種類 ----- | 1 |
| (3) 事業の実施想定区域の位置・規模 ----- | 1 |
| 第 2 章 対象事業の目的及び内容 ----- | 1 |
| 1. 事業の目的 ----- | 1 |
| 2. 事業の内容 ----- | 3 |
| (1) 計画の概要 ----- | 3 |
| (2) 複数案の設定と施設配置計画 ----- | 3 |
| (3) 余熱利用計画 ----- | 6 |
| (4) 公害防止計画 ----- | 6 |
| (5) 緑化計画 ----- | 6 |
| (6) 廃棄物処理計画 ----- | 6 |
| (7) 収集運搬車両等の種類に関する計画 ----- | 6 |
| 第 3 章 事業実施想定区域及びその他第一種事業に係る環境影響を受ける 範囲であると認められる地域（影響想定地域）の概況 ----- | 7 |
| 1. 設定した影響想定地域及び設定の根拠 ----- | 7 |
| (1) 設定した影響想定地域及び設定の根拠 ----- | 7 |
| (2) 影響想定地域の概況 ----- | 7 |
| ア 自然的状況 ----- | 7 |
| イ 社会的状況 ----- | 7 |
| 第 4 章 計画段階配慮事項ならびに調査、予測及び評価の方法 ----- | 10 |
| 1. 計画段階環境配慮事項（環境影響評価項目）の選定 ----- | 10 |
| 第 5 章 事業に係る環境影響の総合的な評価 ----- | 14 |
| 1. 環境要素に係る総合的な評価 ----- | 14 |

第1章 事業者及び事業の概要

1. 第一種事業を実施しようとする者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

(1) 第一種事業を実施しようとする者の名称

事業者の名称：札幌市

(2) 代表者の氏名

代表者の氏名：札幌市長 秋元克広

(3) 主たる事務所の所在地

主たる事務所の所在地：札幌市中央区北1条西2丁目

2. 事業の名称及び種類

(1) 事業の名称

事業の名称：札幌市駒岡清掃工場更新事業

(2) 事業の種類

事業の種類：札幌市環境影響評価条例第2条第2項第6号に掲げる第一種事業
『その他の一般廃棄物処理施設』の新設

(3) 事業の実施想定区域の位置・規模

事業実施想定区域の位置：札幌市南区真駒内129番地3ほか

(図1-1 事業実施想定区域位置図 参照)

施設の規模：600 t / 日

第2章 対象事業の目的及び内容

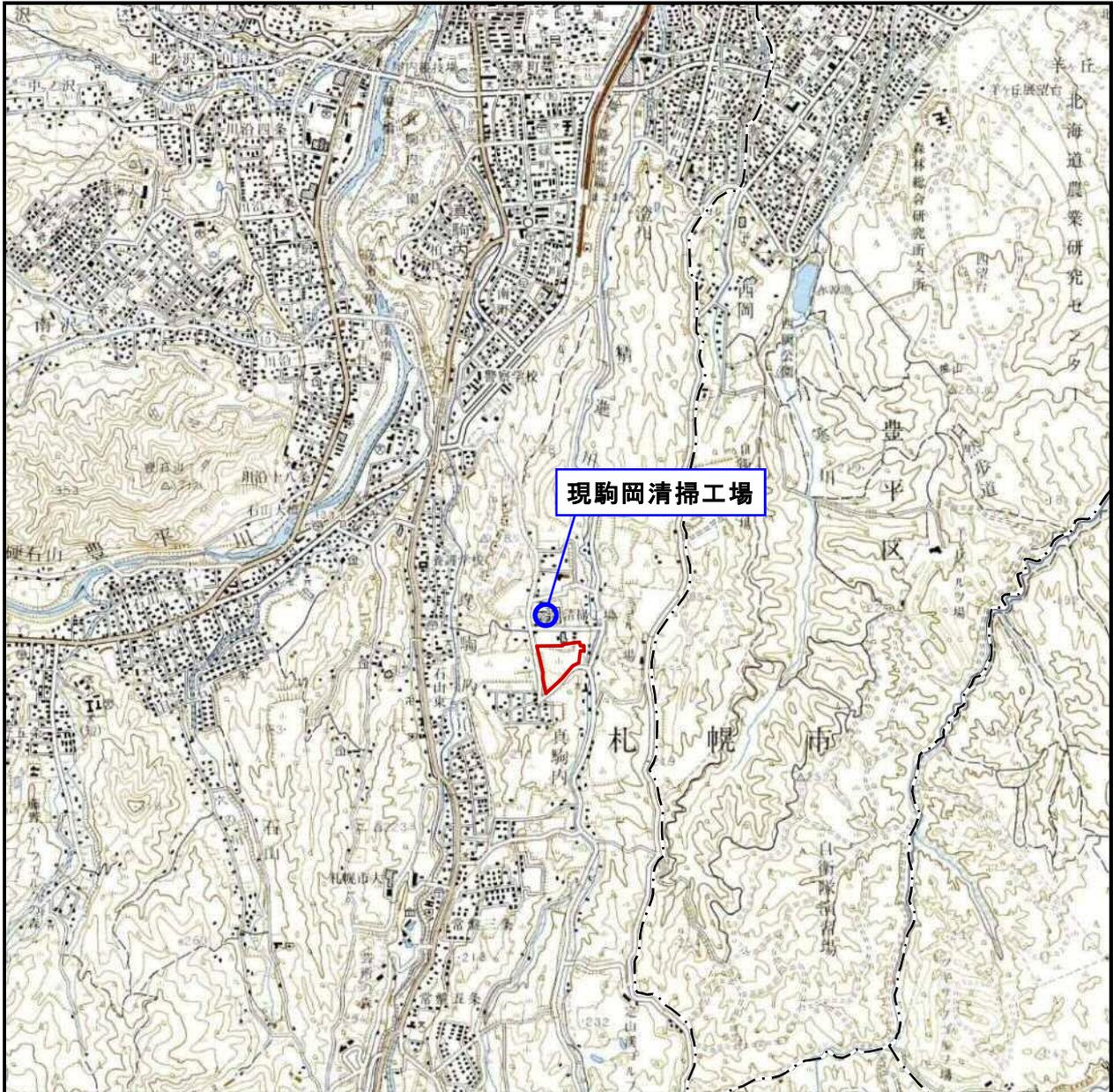
1. 事業の目的

札幌市は、平成26年3月に札幌市一般廃棄物処理基本計画「スリムシティさっぽろ計画（改定版）」を策定し、ごみ減量・リサイクルをより一層推進するとともに、焼却処理による廃棄ごみの減容化と埋立処分量の減少を目的として、3清掃工場の計画的な整備を行い、安定的かつ効率的な廃棄物処理システムの構築に努める方針である。

本事業は、これらの方針に合わせて、市内から排出される一般廃棄物を対象とした焼却施設、資源化機能を含めた破碎施設等の複合的な廃棄物処理施設の併設とともに、エネルギー供給拠点としての役割も見据えた、駒岡清掃工場の更新を目的としている。

駒岡清掃工場については、昭和60年に竣工し、3清掃工場の中で最も稼働期間が長く、計画的に整備を実施しても、全体的な老朽化は避けられないことから、更新が必要な状況となっている。

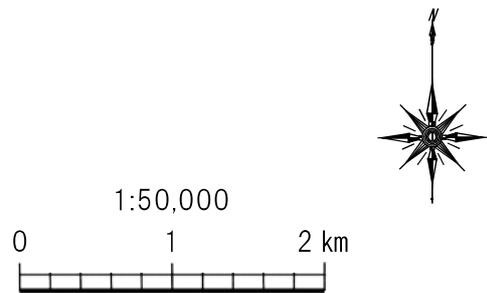
更新においては、ごみ減量施策の効果も見込んだ将来的な廃棄ごみ量、今後想定される発寒清掃工場及び白石清掃工場の老朽化に伴う処理能力の低下や定期整備による一時的焼却能力低下を踏まえた施設規模の設定を行い、安定的な焼却処理体制を確保する必要がある。また、高効率なエネルギー回収能力設備の導入による廃棄物発電、余熱利用の推進などを勘案し、更新計画の策定を進めている。



| 凡 例 | |
|---|----------|
|  | 事業実施想定区域 |
|  | 区 界 |

図 1-1 事業実施想定区域位置図

※この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(札幌市、石山)を使用したものである



2. 事業の内容

(1) 計画の概要

ア 事業規模（焼却能力）について

新清掃工場が稼働する予定の平成 36 年度に焼却処理しなければならない焼却ごみ量は 410,900 トンと試算され、これを安定的に処理するためには、現駒岡清掃工場と同等の施設規模が必要であることから、新駒岡清掃工場の規模については、600 トン/日として計画を進める。

(2) 複数案の設定と施設配置計画

ア 複数案の設定

図 2-2-1 のとおり、事業候補地を検討した。

現駒岡清掃工場の西側用地及び東側用地への施設配置案を検討したが、面積の不足により、焼却施設のみであっても必要な施設要素の配置が困難であった。

南側用地については、利用可能面積も十分にあり、施設配置が可能な条件を満たしていること、この用地以外に現清掃工場周辺用地では建設が可能な面積を有する用地が存在しないことから、南側用地を事業候補地として、配置、構造の複数案を検討する。

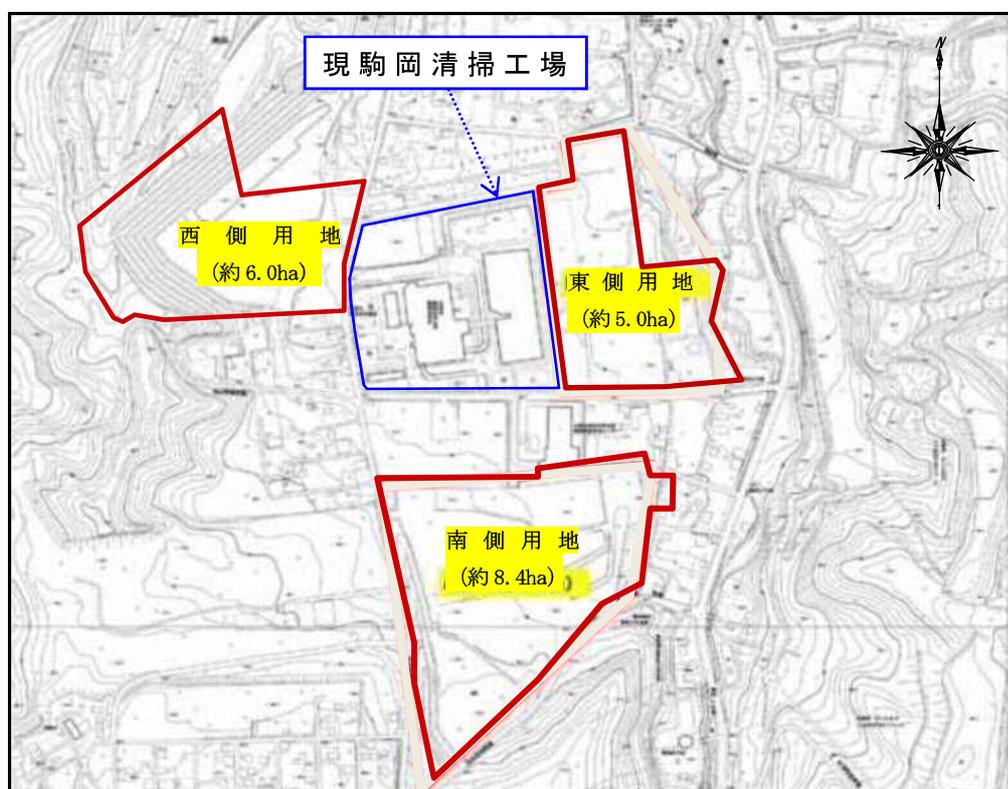


図 2-2-1 事業候補地の位置図

イ 複数案の設定と施設配置計画

南側用地（面積約 8.4ha）における施設の配置を検討し、複数案として A 案、B 案の 2 案を設定した。

A 案、B 案の施設配置計画を、図 2-2-2 及び図 2-2-3 にそれぞれ示す。

また、煙突からの排出ガス等の環境影響を評価する際には、現駒岡清掃工場の煙突高さ 100m に加えて、他都市でも検討の実績がある 130m の煙突高さについて、複数案として検討する。

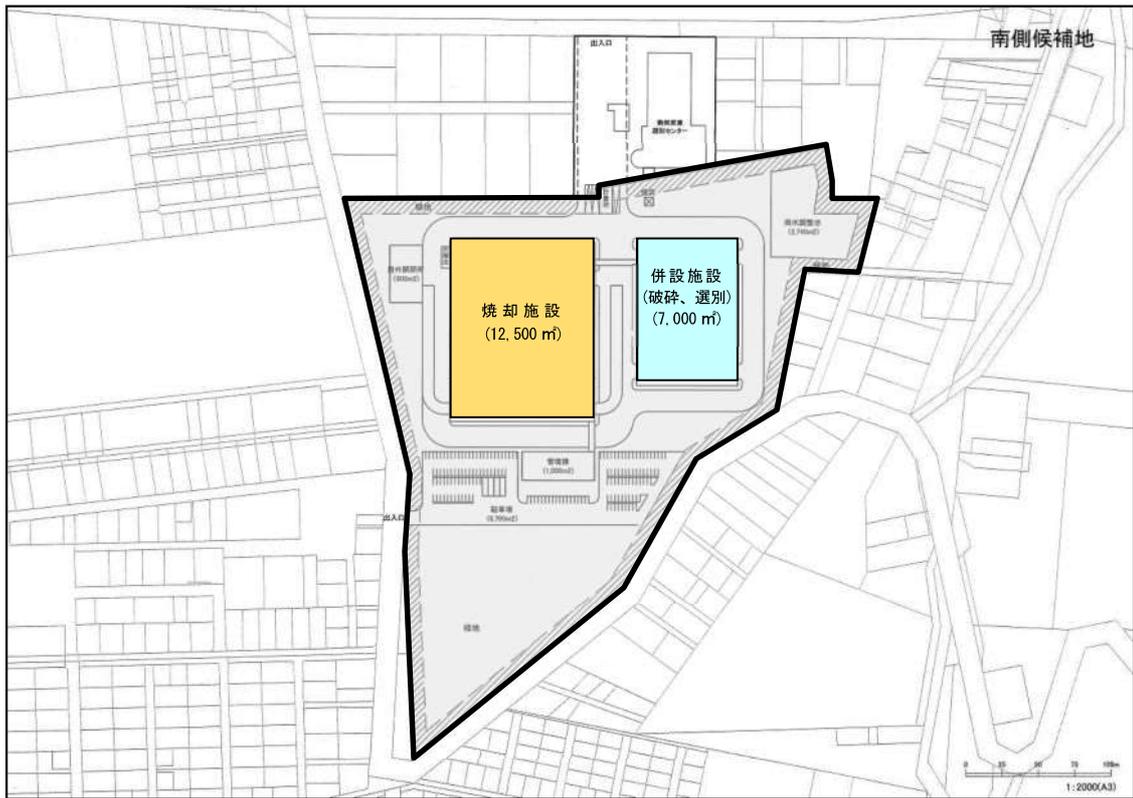


図 2-2-2 南側用地の A 案の施設配置計画

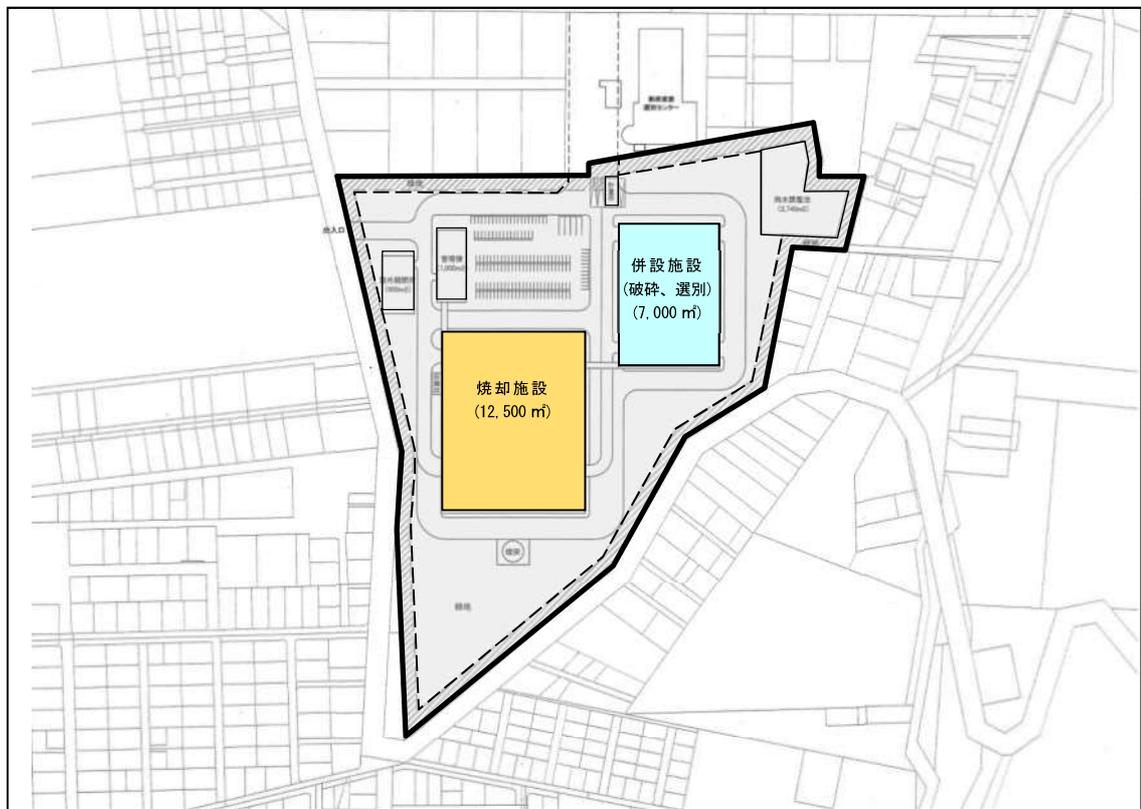


図 2-2-3 南側用地の B 案の施設配置計画

(3) 余熱利用計画

現在の駒岡清掃工場では、ごみを焼却した際に発生する大量の熱エネルギーをボイラーで吸収し、その余熱を利用して発電し、工場内で使用するほか、余った電力を売却している。また、冷暖房、ロードヒーティング等に利用するため工場の内外へ余熱を供給しており、場外余熱利用先は、北海道地域暖房(株)及び保養センター駒岡である。

新駒岡清掃工場においては、場外余熱利用を継続するとともに、高効率発電の導入により夏季の発電量を現在の約2倍、冬季の余熱供給量を現在の約3倍にすることを計画している。

(4) 公害防止計画

現在の駒岡清掃工場では、排ガス等の管理基準値を設け、公害防止に努めるように管理している。新駒岡清掃工場においても環境基準に適合するよう管理基準値を設け、公害防止に努める計画とする。

ア 現駒岡清掃工場の管理基準項目

- a 排出口排出基準値（大気汚染防止法に基づく排出基準）
- b 悪臭防止規制（悪臭防止法に基づく規制基準）
- c 市街地同等の騒音規制法及び振動規制法の規制基準（自主基準）
- d 施設排水（下水道法の規制基準）

(5) 緑化計画

本事業は、「都市計画法第11条第3項」に規定する都市施設に該当することから、緑化率の制限は受けないが、今後、駒岡清掃工場更新基本計画を策定する中で可能な限り緑化率を上げる事を検討する。

(6) 廃棄物処理計画

ア 焼却残さ

焼却施設から発生する焼却灰、飛灰処理物の基準は、「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」に基づき規定されており、新施設においてもこれを順守することとする。

イ 飛灰処理物の基準

焼却施設から発生する飛灰は、環境大臣の定める方法により適正に処理した後、最終処分場に埋立処分するものとする。

(7) 収集運搬車両等の種類に関する計画

搬出入車両の台数は現駒岡清掃工場、現駒岡破碎工場の実績と同程度と計画している。

第3章 事業実施想定区域及びその他第一種事業に係る環境影響を受ける範囲であると認められる地域（影響想定地域）の概要

1. 設定した影響想定地域及び設定の根拠

(1) 設定した影響想定地域及び設定の根拠

札幌市環境影響評価条例第4条第1項及び第5条第1項に規定される環境配慮指針及び技術指針に基づき、関連する既存資料を整理し、影響想定地域を調査範囲とした地域の概況把握を行った。

「影響想定地域」とは、事業の実施により1以上の環境要素が影響を受ける範囲であり、事業の特性と調査、予測及び評価の選定項目により異なることから、次頁表3-1-1に一覧を示す。また、図3-1-1に影響想定地域の設定状況を示す。

(2) 影響想定地域の概況

ア 自然的状況

(ア) 地域の生活環境に係る項目

事業実施想定区域の周辺には、大気汚染、騒音、振動及び水質の公害関係法令に基づく届出施設が存在しているが、大気及び土壌ダイオキシン類の測定結果は環境基準等を達成している。悪臭発生施設は存在しない。

また、精進川及び真駒内川における水質の悪化傾向は見られない。

(イ) 地域の自然的状況に係る項目

事業実施想定区域の周辺の植生区分は、造成地が多いが、周辺の低山にはシラカンバ-ミズナラ群落に代表される落葉広葉樹林が広がっている。駒岡地区は、戦後に開拓され、昭和41年以後に宅地造成が進んだ土地である。

現在、事業実施想定区域の北方3.5kmの位置に真駒内公園が、南方約2.3kmの位置に芸術の森が、南方約5kmの位置には滝野すずらん丘陵公園が存在し、豊かな自然環境を形成している。

イ 社会的状況

(ア) 地域の社会的状況に係る項目

事業実施想定区域周辺は市街化調整区域であるが、真駒内駒岡団地や石山東地区は住宅地となっている。また、北側に札幌市保養センター駒岡がある。

札幌市内からの主要アクセス道路は国道453号、市道駒岡真駒内線や市道真駒内滝野線であり、市道真駒内滝野線沿線には駒岡小学校が存在する。

(イ) 環境関係法令等に係る項目

事業実施想定区域は、悪臭の規制地域に該当するが、騒音に係る環境基準の類型指定地域、騒音及び振動の規制区域には指定していない。また、精進川、真駒内川は、河川の環境基準A類型に指定されている。

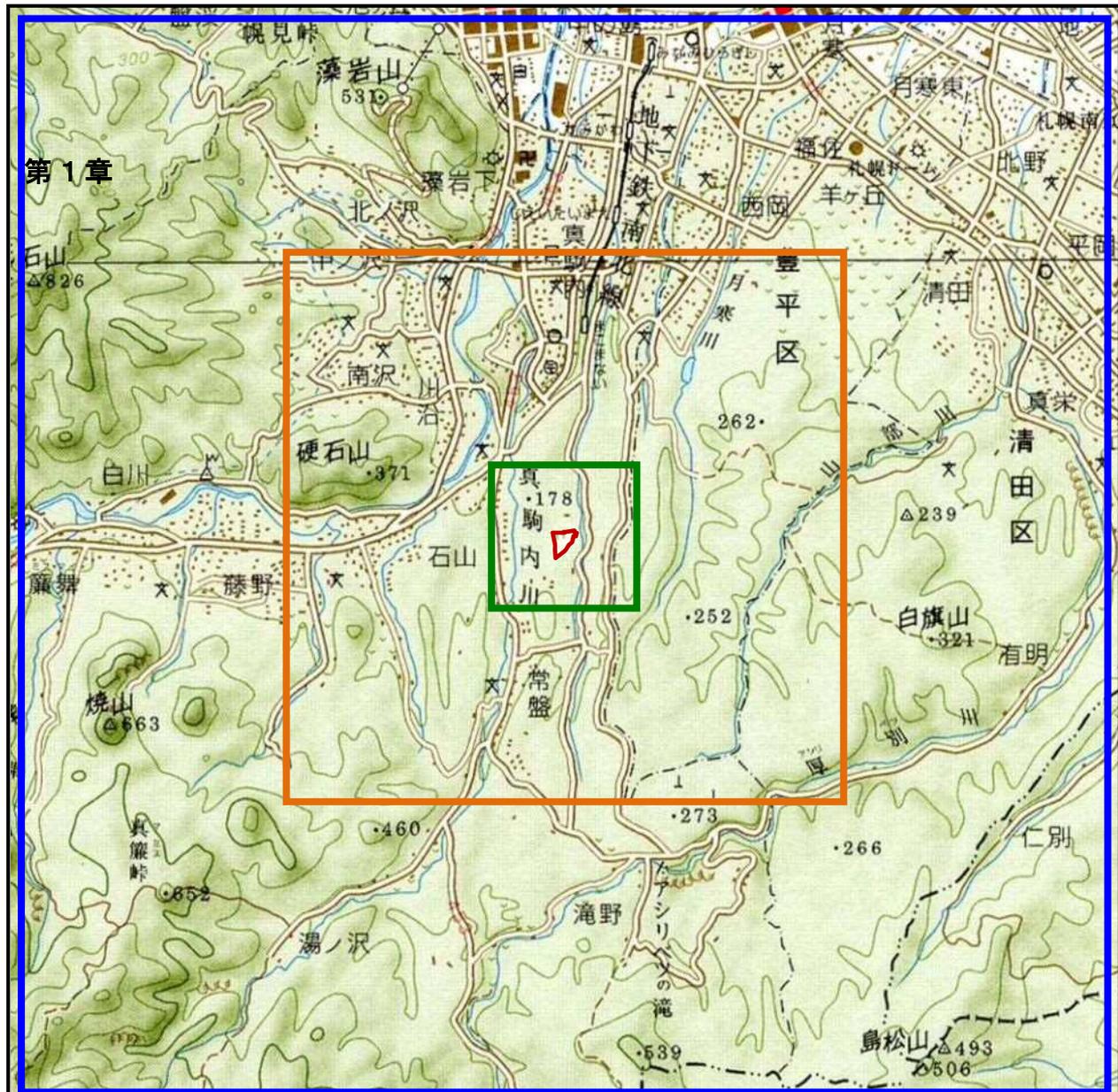
また、事業実施想定区域の周辺に、自然環境の保全に関する法令に基づき指定された区域及び地域はないが、真駒内公園は、保安林や鳥獣保護区等に指定されている。

表 3-1-1 影響想定地域の範囲及び設定根拠

| 項目 | | 影響想定地域の範囲 | 設定根拠 | 出典等 |
|---------------------|-------------------------|--|--|---|
| 大気質 及び 悪臭 | 煙突排ガス (大気質、悪臭) | 周辺の住居地域及び 想定される最大着地 濃度地点を含む最大 5 km 程度の範囲 (煙突排ガス) | 排ガスの最大着地濃度 地点が煙突から 2 km 以 内と想定した 2 倍以上 の範囲を設定、また、札 幌市の大気質及び土壌 ダイオキシン類の調査 地点を考慮して設定 | 「廃棄物 処理施設 生活環境 影響調査 指針」H19 環境省 |
| | 搬出入車両の排ガス (大気質) | 事業実施想定区域から 最大 1 km 程度の範囲 (車両排ガス) | 類似例などの一般的 な距離減衰を考慮し て設定 | |
| | 施設漏洩悪臭(悪臭) | 同上(施設漏洩悪臭) | | |
| 騒音 及び 振動 | 施設稼働による騒音 | 同上(騒音・振動) | | |
| | 施設振動による振動 | | | |
| | 車両 ^{※1} の騒音・振動 | | | |
| 水質 | 施設排水 | 設定なし | 施設排水は下水道に接 続し河川放流しないた め設定しない | |
| | 工事濁水 | 精進川の水位・流量及び 水質観測点を含む最大 5 km 程度の範囲 (工事濁水) | 造成に係る濁水が下流 河川に及ぶ可能性があ り、水位等観測地点を考 慮して設定 | |
| 地形及び地質 | | 事業実施想定区域から 最大 1 km 程度の範囲 (地形及び地質) | 土地改変や土砂流下 等による重要な地形・ 地質の消失や特性 変化を考慮して設定 | 文献及び 現地確認 資料 現地踏査 等 |
| 日照障害 | | 同上(日照障害) | 冬至日の日影長さ及び 人家等を考慮して設定 | |
| 電波障害 | | 同上(電波障害) | 類似事例の障害範囲を 考慮して設定 | |
| 植物 | | 事業実施想定区域から 最大 1 km 程度の範囲 (植物、猛禽類を除く 動物) | 移動能力及び周辺の 生息環境等を考慮し て設定 | |
| 動物 | 猛禽類を除く動物 | 事業実施想定区域から 最大 5 km 程度の範囲 (猛禽類及び生態系) | 北海道の山間部に生息 するオオタカの営巣地 間距離 ^{※2} を考慮して設 定 | |
| | 猛禽類 | | | |
| 生態系 | | | | |
| 人と自然との触れ合いの活動 の場 | | 同上 (触れ合いの活動の場) | 代表的な公園施設(芸術 の森及び真駒内公園)等 を考慮して設定 | |
| 景観 | | 藻岩山展望台を含む最 大 11km 程度の範囲 (景観) | 遠景眺望点(藻岩山)を 考慮して設定 | |
| 温室効果ガス | | 市内全域 | 地球環境に係る環境要 素として設定 | |
| 廃棄物 | | | 環境への負荷の回避・低 減に係る環境要素とし て設定 | — |

※1：騒音及び振動に係る車両は、工事関係車両及び施設供用時の搬出入車両を指す。

2：「北海道の猛禽類 -クマカ、オオタカ、ハイタカ、ハチクマ、ハヤブサ、オジロワシ-」（北海道猛禽類研究会 2013）を参照。



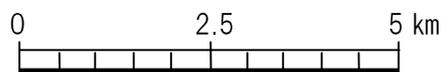
| 凡 例 | |
|---|--|
|  | 事業実施想定区域 |
|  | 区 界 |
|  | 影響想定地域 (景観) |
|  | 影響想定地域 (煙突排ガス) (工事濁水) (猛禽類及び生態系) (触れ合いの活動の場) |
|  | 影響想定地域 (車両排ガス) (騒音・振動) (施設漏洩悪臭) (地形及び地質) (日照阻害) (電波障害) (植物、猛禽類を除く動物) |

図 3-1-1 影響想定地域の設定

※この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(札幌、石山)を使用したものである



1:100,000



第4章 計画段階配慮事項ならびに調査、予測及び評価の方法

1. 計画段階配慮事項（環境影響評価項目）の選定

計画段階配慮事項（環境影響評価項目）については、事業の特性等を考慮して環境影響要因を抽出し、環境影響要因と環境要素との関連を整理して選定した。

選定した計画段階配慮事項（環境影響評価項目）を表 4-1-1 に示し、その選定等の理由を表 4-1-2(1)～4-1-2(2) に示す。

なお、工事の実施に係る影響の検討については、本配慮書では計画等が未定な段階にあることから調査、予測及び評価の対象としないこととし、方法書段階にて選定することとした。

また、地形及び地質については、周辺に重要な地形及び地質は存在しないが、地下水利用等の計画が未定な段階にあること、また、重要な施設から発生する廃棄物についても、焼却施設の仕様や運営計画等が未定な段階にあることから、方法書段階で選定することとした。

電波障害については、「札幌市環境影響評価技術指針」における「廃棄物焼却施設等に係る基本項目」ではないことから本配慮書では選定しなかったが、施設の配置及び煙突高さが確定する方法書段階以後において選定することとした。

表 4-1-1 計画段階配慮事項（環境影響評価項目）の選定

| 影響要因の区分 環境要素の区分 | | 工事の実施 | | | | | 土地又は工作物の存在及び供用 | | | | |
|--|-----------------|------------------------|----------|-----------|----------|------------------|----------------|----|--------|---------|--------|
| | | 建設機械の稼働 | 用いる車両の運行 | 資材及び機械の運搬 | 切土工等及び存在 | 地形変化後の土地及び工作物の存在 | 施設の稼働 | | | 廃棄物の搬出入 | 廃棄物の発生 |
| | | | | | | | 排出ガス | 排水 | 機械等の稼働 | | |
| 人の健康の保護及び生活環境の保全、並びに環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素 | 大気質 | 硫黄酸化物 | | | | | ◎ | | | | |
| | | 窒素酸化物 | | | | | ◎ | | | ○ | |
| | | 浮遊粒子状物質 | | | | | | ◎ | | | |
| | | 粉じん等 | ☆ | ☆ | | | | | | | |
| | | 有害物質 | | | | | | ◎ | | | |
| | 騒音 | 騒音 | ☆ | ☆ | | | | | ○ | ○ | |
| | 振動 | 振動 | ☆ | ☆ | | | | | ○ | ○ | |
| | 悪臭 | 悪臭 | | | | ○ | ○ | | | — | |
| | 水質 | 水の汚れ | | | | | | | — | | |
| | | 水の濁り | | | ☆ | | | | | | |
| 有害物質 | | | | | | | | — | | | |
| 地形及び地質 | 重要な地形及び地質 | | | | ☆ | | | | | | |
| 日照障害 | 日照障害 | | | | | ○ | | | | | |
| 電波障害 | 電波障害 | | | | | ☆ | | | | | |
| 生物の多様性の確保及び多様な自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素 | 植物 | 重要な植物種及び群落とその生育地 | | | | ○ | | | | | |
| | 動物 | 重要な動物種及び注目すべき生息地 | | | | ○ | | | | | |
| | 生態系 | 地域を特徴づける生態系 | | | | ○ | | | | | |
| 人と自然との豊かな触れ合いを旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素 | 景観 | 主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観 | | | | ◎ | | | | | |
| | 人と自然との触れ合いの活動の場 | 主要な人と自然との触れ合いの活動の場 | | | | ○ | | | | | |
| 環境への負荷の回避・低減及び地球環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素 | 廃棄物等 | 廃棄物及び副産物 | | | ☆ | | | | | ☆ | |
| | 温室効果ガス | 二酸化炭素 | | | | | ○ | | | | |

注1：■は「札幌市環境影響評価技術指針」における「廃棄物焼却施設等に係る基本項目」を示す。

注2：「○」は環境要素として選定する項目、「◎」は重点項目として選定する項目を示す。

「☆」は配慮書段階においては選定しないが、方法書段階において選定する項目を示す。

「—」は本事業の計画及び事業特性を考慮して選定しない項目を示す。

表 4-1-2(1) 計画段階配慮事項（環境影響評価項目）の選定・非選定の理由（1/2）

| 環境要素の区分 | | 環境要因の区分 | | 工事の実施 | | 土地又は工作物の存在及び供用 | | | | | | 事業特性・地域特性を踏まえた項目の選定・非選定の理由 | | |
|--|-----------|--------------------|---------|---------|--------|----------------|----|----|----|----|----|----------------------------|--|---|
| | | 建設機械の稼働 | 運搬車両の走行 | 切土工・工作物 | 土地・工作物 | 施設稼働 | 稼働 | 稼働 | 稼働 | 稼働 | 稼働 | | 稼働 | |
| 人の健康の保護及び生活環境の保全、並びに環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素 | 大気質 | 硫黄酸化物 | | | | | ◎ | | | | | | 施設の稼働及び搬出入車両の走行により周辺の生活環境への影響が考えられるため選定する。 また、当該施設はばい煙発生施設であり、周辺の生活環境に配慮して特に大気質への負荷を低減すべき項目であること、周辺に住宅地があり、複数案による影響を定量的に確認すべき項目であることから、重点項目に選定する。搬出入車両は走行に伴う周辺環境への影響が考えられるため選定する。 | |
| | | 窒素酸化物 | | | | | ◎ | | | | ○ | | | |
| | | 浮遊粒子状物質 | | | | | | ◎ | | | | | | |
| | | 有害物質 | | | | | | ◎ | | | | | | |
| | | 粉じん等 | ☆ | ☆ | | | | | | | | | | |
| | 騒音 | 騒音レベル | ☆ | ☆ | | | | | | | | ○ | ○ | 焼却施設の稼働及び搬出入車両の走行により周辺住居等や道路沿道地域の生活環境に影響を及ぼす可能性が考えられるため選定する。 工事影響については、工種及び工区の計画が未定な段階であり、方法書段階で検討する。 |
| | | 振動レベル | ☆ | ☆ | | | | | | | | ○ | ○ | |
| | 悪臭 | 悪臭 (臭気濃度及び臭気指数) | | | | | | | ○ | ○ | | | — | 焼却施設の排ガス及び施設から漏洩する悪臭が、周辺の生活環境に影響を及ぼす可能性があるため選定する。 なお、搬出入車両に係る悪臭は、周囲に拡散することがないことを前提に選定しない。 |
| | 水質 | 水の汚れ | | | | | | | | | | | — | 施設排水は下水道排除基準以下にて公共下水道に接続し、公共用水域に排出しない計画から選定しない。 造成工事による濁水等の発生が下流河川に影響を及ぼす可能性があるが、工事計画（工区や面積）が未定な段階にあるため方法書段階で検討する。 |
| | | 有害物質 | | | | | | | | | | | — | |
| 水の濁り | | | | ☆ | | | | | | | | | | |
| 地形及び地質 | 重要な地形及び地質 | | | | | | ☆ | | | | | | 周辺に重要な地形・地質が存在しないため、配慮書では選定しない。なお、工事計画が確定した段階で、影響を及ぼす可能性が有る場合は、事業実施想定区域の地質調査を含めて検討する。 | |
| 日照障害 | 日照障害 | | | | | | ○ | | | | | | 建築物形状は未定な段階にあるが、周辺に日影の発生する可能性があることから選定する。なお、煙突については、幅が狭く、長時間の日陰をつくらないことから対象としない。 | |
| 電波障害 | 電波障害 | | | | | | ☆ | | | | | | テレビ電波等に係る資料調査を行うが、現地の受信障害は資料による把握が困難なため、方法書段階で調査方法を検討する。 | |

注：「○」は環境要素として選定する項目、「—」は札幌市技術指針の一般項目であるが選定しない項目を示す。

「◎」は重点項目として選定する項目を示す。

「☆」は配慮書段階においては選定しないが、方法書段階において選定する項目を示す。

表 4-1-2(2) 計画段階配慮事項（環境影響評価項目）の選定・非選定の理由（2/2）

| 環境要因の区分 | | | 工事の実施 | | 土地又は工作物の存在及び供用 | | | | | | 事業特性・地域特性を踏まえた項目の選定・非選定の理由 |
|---|-----------------|------------------------|---------|---------|----------------|--------|------|------|----|-------|--|
| | | | 建設機械の稼働 | 運搬車両の走行 | 切土工・工作物 | 土地・工作物 | 施設稼働 | 排出ガス | 排水 | 機械等稼働 | |
| 環境要素の区分 | | | | | | | | | | | |
| 予測及び評価されるべき環境要素 生物の多様性の確保及び多様な自然環境の体系的保全を旨として調査、 | 植物 | 重要な植物種及び群落とその生育地 | | | | ○ | | | | | 事業実施想定区域は既存施設に隣接する計画であるが、文献資料及び現地確認において事業実施想定区域周辺に重要な動植物が確認されており、清掃工場の供用により動植物や生態系へ影響を及ぼす可能性が考えられるため選定する。 |
| | 動物 | 重要な動物種及び注目すべき生息地 | | | | ○ | | | | | |
| | 生態系 | 地域を特徴づける生態系 | | | | ○ | | | | | |
| 人と自然との豊かな触れ合いを旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素 | 景観 | 主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観 | | | | ◎ | | | | | 施設の存在により、周辺の主要な眺望点や近隣住居地域からの景観に影響を及ぼす可能性があるため選定する。 なお、施設は高さ 100m 以上の煙突を計画し、配置及び高さの違いによる周辺に与える影響の差異を確認すべき項目であることから重点項目に選定する。 |
| | 人と自然との触れ合いの活動の場 | 主要な人と自然との触れ合いの活動の場 | | | | ○ | | | | | 事業実施想定区域及び周辺地域には、人と自然との触れ合いの活動の場が存在し、これらの活動を阻害する可能性が考えられるため選定する。 |
| 環境への良好な状態の回避・低減及び地球環境及び評価されるべき環境要素 | 廃棄物等 | 廃棄物及び副産物 | | | ☆ | | | | | | 工事に発生する建設副産物（残土等）は、工事計画が未定なため配慮書では選定せず、方法書段階で検討する。 また、施設から発生する廃棄物（焼却灰や耐火物等）についても、焼却施設の仕様や運営計画等を検討し、方法書段階で選定する。 |
| | 温室効果ガス | 二酸化炭素 | | | | | | | ○ | | 施設稼働に伴い温室効果ガス（二酸化炭素等）が発生することから選定する。 |

注：「○」は環境要素として選定する項目、「◎」は重点項目として選定する項目を示す。
「☆」は配慮書段階においては選定しないが、方法書段階において選定する項目を示す。

第5章 事業に係る環境影響の総合的な評価

1. 環境要素に係る総合的な評価

事業計画に係る複数案は、施設配置に係るA案及びB案、また煙突高さに係る100m案及び130m案とし、施設供用時の影響に係る大気質、騒音、振動、悪臭、日照阻害、植物、動物、生態系、景観、人と自然との触れ合いの活動の場、温室効果ガスの各環境要素について検討を行った。

特に、大気質及び景観については、事業の特性や地域の特性を踏まえて重要項目として選定し、詳細な検討を行った。

環境要素ごとの環境影響が考えられる内容と、事業計画における環境配慮の概要を表5-1-1～5-1-8にまとめた。

表 5-1-1 環境影響の総合的な評価(大気質)

| 環境要素 | 影響要因の区分 | 調査項目 | 予測項目 予測方法 | 評価結果 | | | | 必要な配慮事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|--|---|----------|----------|-----------------|------------------------|---|-----------------------|-----|--------------------------------------|-----|---|--|----------------------------------|--|--|--|---|---|--|--|---|---|
| | | | | 施設配置 A 案 | | 施設配置 B 案 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 煙突高 100m | 煙突高 130m | 煙突高 100m | 煙突高 130m | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大気質 | ◎施設の稼働 (排出ガス) | <ul style="list-style-type: none"> ・大気汚染環境基準 排出基準 ・気象状況 ・大気汚染状況 ・周辺の発生源 <table border="1"> <tr> <th colspan="2">【大気環境基準】</th> </tr> <tr> <th>項目</th> <th>長期的評価</th> </tr> <tr> <td>SO₂</td> <td>年間 2%除外値 0.04ppm 以下</td> </tr> <tr> <td>NO₂</td> <td>年間 98%値 0.06ppm 以下</td> </tr> <tr> <td>SPM</td> <td>年間 2%除外値 0.10mg/m³ 以下</td> </tr> <tr> <td>DXN</td> <td>年間平均値 0.6pg-TEQ/m³ 以下</td> </tr> </table> | 【大気環境基準】 | | 項目 | 長期的評価 | SO ₂ | 年間 2%除外値 0.04ppm 以下 | NO ₂ | 年間 98%値 0.06ppm 以下 | SPM | 年間 2%除外値 0.10mg/m ³ 以下 | DXN | 年間平均値 0.6pg-TEQ/m ³ 以下 | <ul style="list-style-type: none"> ・予測項目 ア.硫黄酸化物(SO₂) イ.窒素酸化物(NO₂) ウ.浮遊粒子状物質(SPM) エ.ダイオキシン類(DXN) ・予測方法 ブルーム・パフ拡散モデルを用いた長期平均濃度に係る拡散計算 ・予測地点 最大着地地点及び周辺の代表的保全対象施設(駒岡小学校、石山東小学校、保養センター駒岡、駒岡団地) | 煙突 100m A 案を 1 としたときの影響の程度の比較 | <ul style="list-style-type: none"> ・寄与濃度： ア. 二酸化窒素：0.62～0.79 イ. 二酸化硫黄：0.68～0.83 ウ. 浮遊粒子状物質：0.68～0.83 エ. ダイオキシン類：0.68～0.83 | <ul style="list-style-type: none"> ・寄与濃度： ア. 二酸化窒素：0.57～1.83 イ. 二酸化硫黄：0.63～1.63 ウ. 浮遊粒子状物質：0.63～1.63 エ. ダイオキシン類：0.63～1.63 | <ul style="list-style-type: none"> ・寄与濃度： ア. 二酸化窒素：0.47～1.16 イ. 二酸化硫黄：0.54～1.13 ウ. 浮遊粒子状物質：0.54～1.13 エ. ダイオキシン類：0.54～1.13 | <ul style="list-style-type: none"> ・最大着地濃度： ア.二酸化窒素：0.675 イ.二酸化硫黄：0.725 ウ.浮遊粒子状物質：0.725 エ.ダイオキシン類：0.725 ・出現距離：1.04 ・煙突高さ 100m より拡散しやすい | <ul style="list-style-type: none"> ・最大着地濃度： ア.二酸化窒素：1 イ.二酸化硫黄：1 ウ.浮遊粒子状物質：1 エ.ダイオキシン類：1 ・出現距離：1 ・煙突高 100m より拡散しやすい | <ul style="list-style-type: none"> ・最大着地濃度： ア.二酸化窒素：0.675 イ.二酸化硫黄：0.725 ウ.浮遊粒子状物質：0.725 エ.ダイオキシン類：0.725 ・出現距離：1.04 ・煙突高 100m より拡散しやすい | <ul style="list-style-type: none"> ・長期的評価：全地点で環境基準等と整合、現況から変化なし ・短期的評価：方法書段階で調査及び予測方法を検討 | <ul style="list-style-type: none"> ・影響の程度：複数案について同様 ・大気質の濃度：現況と同等以下 ・駒岡小学校付近への影響：発生しない ・環境基準：現況を変化させず、基準等に整合する可能性が大 ・定量的評価:方法書段階で調査及び予測方法を検討 | <ul style="list-style-type: none"> ・法定速度の順守、現況と同様な収集運搬の管理が必要 |
| | | | 【大気環境基準】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 項目 | 長期的評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| SO ₂ | 年間 2%除外値 0.04ppm 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| NO ₂ | 年間 98%値 0.06ppm 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| SPM | 年間 2%除外値 0.10mg/m ³ 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| DXN | 年間平均値 0.6pg-TEQ/m ³ 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・最大着地濃度： ア.二酸化窒素：0.675 イ.二酸化硫黄：0.725 ウ.浮遊粒子状物質：0.725 エ.ダイオキシン類：0.725 ・出現距離：1.04 ・煙突高さ 100m より拡散しやすい | <ul style="list-style-type: none"> ・最大着地濃度： ア.二酸化窒素：1 イ.二酸化硫黄：1 ウ.浮遊粒子状物質：1 エ.ダイオキシン類：1 ・出現距離：1 ・煙突高 100m より拡散しやすい | <ul style="list-style-type: none"> ・最大着地濃度： ア.二酸化窒素：0.675 イ.二酸化硫黄：0.725 ウ.浮遊粒子状物質：0.725 エ.ダイオキシン類：0.725 ・出現距離：1.04 ・煙突高 100m より拡散しやすい | <ul style="list-style-type: none"> ・長期的評価：全地点で環境基準等と整合、現況から変化なし ・短期的評価：方法書段階で調査及び予測方法を検討 | <ul style="list-style-type: none"> ・法定速度の順守、現況と同様な収集運搬の管理が必要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 共通 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 共通 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ○廃棄物の搬出入 (車両の走行) | <ul style="list-style-type: none"> ・大気汚染環境基準、 ・気象状況 ・周辺の交通量 <table border="1"> <tr> <th colspan="2">【大気環境基準】</th> </tr> <tr> <th>項目</th> <th>長期的評価</th> </tr> <tr> <td>NO₂</td> <td>年間 98%値 0.06ppm 以下</td> </tr> </table> | 【大気環境基準】 | | 項目 | 長期的評価 | NO ₂ | 年間 98%値 0.06ppm 以下 | <ul style="list-style-type: none"> ・予測項目 窒素酸化物(NO₂) ・予測方法 現況と車両計画を比較する定性的な予測 ・予測地点 搬出入車両の主要走行経路となる事業実施想定区域の周辺沿道地域における保全対象住居や駒岡小学校 | | 共通 | | | | | | | | | | | | | | |
| 【大気環境基準】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 項目 | 長期的評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| NO ₂ | 年間 98%値 0.06ppm 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 共通 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

注：影響要因の区分で○は札幌市環境影響評価技術指針に従った選定項目、◎はそのうち重点項目とした項目を示す。

表 5-1-2 環境影響の総合的な評価(騒音、振動)

| 環境要素 | 影響要因の区分 | 調査項目 | 予測項目 予測方法 | 評価結果 | | | 必要な配慮事項 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|---|--|--|----------|----------|------------------------|---------|--|---------------|---|----------------------|--|--|-----------------------------|---------|----|---------|---|----------------------|--|--|---------------------------------|
| | | | | | 施設配置 A 案 | 施設配置 B 案 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 騒音 | ○施設の稼働 (機械等の稼働) | <ul style="list-style-type: none"> 騒音環境基準 騒音規制基準 周辺の発生源 【騒音環境基準】 <table border="1"> <tr> <td>時間帯</td> <td>A,B 類型 Leq</td> </tr> <tr> <td>昼間</td> <td>55dB 以下</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>45dB 以下</td> </tr> </table> 【事業場規制基準】 <table border="1"> <tr> <td>時間帯</td> <td>第 2 種区域 L5</td> </tr> <tr> <td>朝</td> <td>45dB 以下</td> </tr> <tr> <td>昼間</td> <td>55dB 以下</td> </tr> <tr> <td>夕</td> <td>45dB 以下</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>40dB 以下</td> </tr> </table> | 時間帯 | A,B 類型 Leq | 昼間 | 55dB 以下 | 夜間 | 45dB 以下 | 時間帯 | 第 2 種区域 L5 | 朝 | 45dB 以下 | 昼間 | 55dB 以下 | 夕 | 45dB 以下 | 夜間 | 40dB 以下 | <ul style="list-style-type: none"> 予測項目 施設騒音レベル 予測方法 ア.施設建物と住居位置を比較する定性的な方法 イ.距離減衰を考慮した簡易的な予測方法 予測地点 施設稼働による騒音が到達する住居や保全対象施設 | 周辺住居等 立地状況の 比較 | 最寄り住居：建物から 50m 100m 以内の住居： 3 戸 200m 以内の住居： 14 戸 駒岡小学校：焼却施設から 240m | 最寄り住居：建物から 50m 100m 以内の住居： 3 戸 200m 以内の住居： 30 戸 駒岡小学校：焼却施設から 220m | 敷地境界における規制基準の順守、現況と同様な騒音防止管理が必要 |
| | | | 時間帯 | A,B 類型 Leq | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昼間 | 55dB 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 夜間 | 45dB 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 時間帯 | 第 2 種区域 L5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 朝 | 45dB 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昼間 | 55dB 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 夕 | 45dB 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 夜間 | 40dB 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 焼却施設の 住居に対する 配置 | <ul style="list-style-type: none"> 焼却施設が併設施設（破碎,資源化）に隠れる B 案よりも騒音を低減しやすい | <ul style="list-style-type: none"> 焼却施設が併設施設（破碎,資源化）に隠れない A 案の方が騒音を低減しやすい | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 共通 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> 周辺への影響：参考とする環境基準（A または B 類型）等に整合 施設配置：複数案について同様 定量的評価：方法書段階で調査及び予測方法を検討 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ○廃棄物の搬出入 (車両の走行) | <ul style="list-style-type: none"> 騒音環境基準 周辺の交通量 【道路に面する地域の環境基準】 <table border="1"> <tr> <td>時間帯</td> <td>B 地域 Leq</td> </tr> <tr> <td>昼間</td> <td>65dB 以下</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>60dB 以下</td> </tr> </table> | 時間帯 | B 地域 Leq | 昼間 | 65dB 以下 | 夜間 | 60dB 以下 | <ul style="list-style-type: none"> 予測項目 自動車騒音レベル 予測方法 隣接する住居等の数と車両計画を比較する定性的な方法 予測地点 大気質と同様 | 共通 | | | 法定速度の順守、現況と同様な収集の管理が必要 | | | | | | | | | | |
| 時間帯 | B 地域 Leq | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昼間 | 65dB 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 夜間 | 60dB 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> 周辺への影響：車両台数は変わらず、現在と同等以下 駒岡小学校付近への新たな影響はなし 沿道環境への影響：参考とする環境基準に整合する可能性が大 定量的評価：方法書段階で調査及び予測方法を検討 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 振動 | ○施設の稼働 (機械等の稼働) | <ul style="list-style-type: none"> 振動規制基準 周辺の発生源 地盤の状況 【事業場規制基準】 <table border="1"> <tr> <td>時間帯</td> <td>第 1 種区域 L10</td> </tr> <tr> <td>昼間</td> <td>60dB 以下</td> </tr> <tr> <td>夜間</td> <td>55dB 以下</td> </tr> </table> 【参考値】 <table border="1"> <tr> <td>振動感覚閾値※</td> <td>55dB</td> </tr> </table> | 時間帯 | 第 1 種区域 L10 | 昼間 | 60dB 以下 | 夜間 | 55dB 以下 | 振動感覚閾値※ | 55dB | <ul style="list-style-type: none"> 予測項目 施設振動レベル 予測方法 ア.施設建物と住居位置を比較する定性的な方法 イ.距離減衰を考慮した簡易的な予測方法 予測地点 施設稼働による振動が到達する住居や保全対象施設 | 周辺住居等 立地状況の 比較 | 最寄り住居：建物から 50m 100m 以内の住居： 3 戸 200m 以内の住居： 14 戸 駒岡小学校：焼却施設から 240m | 最寄り住居：建物から 50m 100m 以内の住居： 3 戸 200m 以内の住居： 30 戸 駒岡小学校：焼却施設から 220m | 敷地境界における規制基準の順守、現況と同様な管理が必要 | | | | | | | | |
| | | | 時間帯 | 第 1 種区域 L10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昼間 | 60dB 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 夜間 | 55dB 以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 振動感覚閾値※ | 55dB | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 焼却施設の 住居に対する 配置 | <ul style="list-style-type: none"> 焼却施設が併設施設（破碎,資源化）に隠れる B 案よりも振動を低減しやすい | <ul style="list-style-type: none"> 焼却施設が併設施設（破碎,資源化）に隠れない A 案の方が振動を低減しやすい | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 共通 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> 周辺への影響：参考とする基準や感覚閾値等と整合 定量的評価：方法書段階で調査及び予測方法を検討 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ○廃棄物の搬出入 (車両の走行) | <ul style="list-style-type: none"> 振動規制基準 周辺の交通量 | <ul style="list-style-type: none"> 予測項目 道路交通振動レベル 予測方法 隣接する住居等の数と車両計画を比較する定性的な方法 予測地点 大気質、騒音と同様 | 共通 | | | 法定速度の順守、現況と同様な収集の管理が必要 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> 周辺への影響：車両台数は変わらず、現在と同等以下 駒岡小学校付近への新たな影響はなし 施設配置：複数案について同様 沿道環境への影響：参考とする基準や感覚閾値に整合する可能性が大 定量的評価：方法書段階で調査及び予測方法を検討 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

注：影響要因の区分で○は札幌市環境影響評価技術指針に従った選定項目を示す。

※ 振動感覚閾値（いきち）

人体の振動感覚閾値は、50%の人が感じる振動レベルでおおよそ 60dB、10%の人が感じる振動レベルでおおよそ 55dB とされている。（「地方公共団体担当者のための建設作業振動対策の手引き」（環境省）より）

表 5-1-3 環境影響の総合的な評価(悪臭、日照障害)

| 環境要素 | 影響要因の区分 | 調査項目 | 予測項目 予測方法 | 評価結果 | | | | 必要な配慮事項 | | | | | | | | | | |
|--------------------------------------|--|--|--|---|---|--|--|-------------------------------|--|--|--|--|--|--------------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| | | | | 施設配置 A 案 | | 施設配置 B 案 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 煙突高 100m | 煙突高 130m | 煙突高 100m | 煙突高 130m | | | | | | | | | | | |
| 悪臭 | ○施設の稼働 (排出ガス) | <ul style="list-style-type: none"> 悪臭規制基準 気象状況 周辺の発生源 類似施設 <p>◎悪臭規制基準</p> <table border="1"> <tr> <td>規制箇所</td> <td>臭気指数</td> </tr> <tr> <td>敷地境界</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>排出口</td> <td>※</td> </tr> </table> <p>※ 臭気指数 2 号基準</p> | 規制箇所 | 臭気指数 | 敷地境界 | 10 | 排出口 | ※ | <ul style="list-style-type: none"> 予測項目 煙突からの臭気指数 予測方法 類似施設を参考とした許容臭気指数を比較する定性的な方法 予測地点 最大着地地点及び事業実施想定区域の敷地境界 | <p>敷地境界及び最大着地地点の臭気指数： すべて1 (10未満)</p> <table border="1"> <tr> <td>最大着地出現距離：1 煙突高 130m よりも 拡散しにくい</td> <td>1.06 煙突高 100m よりも 拡散しやすい</td> <td>1 煙突高 130m よりも 拡散しにくい</td> <td>1.06 煙突高 100m よりも 拡散しやすい</td> </tr> </table> <p>共通</p> <ul style="list-style-type: none"> 周辺への影響：現況から変化なく、規制基準に整合する 複数案の差：施設配置及び煙突高さによる差はなくすべて臭気指数 10 未満 定量的評価：方法書段階で調査及び予測方法を検討 | | | | 最大着地出現距離：1 煙突高 130m よりも 拡散しにくい | 1.06 煙突高 100m よりも 拡散しやすい | 1 煙突高 130m よりも 拡散しにくい | 1.06 煙突高 100m よりも 拡散しやすい | ごみの安定的燃焼、適切な排ガス処理等、現況と同様な管理が必要 |
| | 規制箇所 | 臭気指数 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 敷地境界 | 10 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 排出口 | ※ | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 最大着地出現距離：1 煙突高 130m よりも 拡散しにくい | 1.06 煙突高 100m よりも 拡散しやすい | 1 煙突高 130m よりも 拡散しにくい | 1.06 煙突高 100m よりも 拡散しやすい | | | | | | | | | | | | | | | |
| *施設の稼働 (施設漏洩) | <ul style="list-style-type: none"> 悪臭規制基準 類似施設 | <ul style="list-style-type: none"> 予測項目 漏洩する臭気指数 予測方法 類似施設や悪臭防止対策を参考とする定性的な方法 予測地点 事業実施想定区域の敷地境界地点及び周辺の住居や施設 | <p>共通</p> <ul style="list-style-type: none"> 周辺への影響：現況から変化なく、規制基準に整合する 複数案の差：施設配置による差はない 定量的評価：方法書段階で調査及び予測方法を検討 | | | | ごみ処理ピットの負圧管理や、車両出入口の管理等、建物外部に漏えいしない構造が必要 | | | | | | | | | | | |
| 日照障害 | *地形改変後の土地及び工作物の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 日影制限区域 日影の状況 地形の状況 | <ul style="list-style-type: none"> 予測項目 施設の存在による日照障害 予測方法 建物高さから日影となる住居等を比較する定性的な方法 予測地点 日照障害の影響を受ける住居や保全対象施設 | 施設配置 A 案 | | 施設配置 B 案 | | 現地の状況を考慮した施設の配置、高さ及び形状等の検討が必要 | | | | | | | | | | |
| | | | | 日影方向 200m 以内の住居等の立地状況 | 住居：3 戸 (北西 1、北東 2) 学校：0 施設 病院：0 施設 福祉施設：0 施設 (B 案の方が影響は少ない) | 住居：2 戸 (北東 2) 学校：0 施設 病院：0 施設 福祉施設：0 施設 (A 案よりも影響が少ない) | | | | | | | | | | | | |
| | | | | <p>共通</p> <ul style="list-style-type: none"> 周辺への影響：建物の日影は長時間発生しない (関係する法規制と整合) 日影発生時間等：方法書段階で調査及び予測方法を検討 | | | | | | | | | | | | | | |

注：影響要因の区分で○は札幌市環境影響評価技術指針に従った選定項目、*は事業特性から選定した項目を示す。

※ 臭気指数 2 号基準

事業場の敷地境界における臭気指数規制基準を 1 号基準、煙突等の気体排出口における基準を 2 号基準、また、排水における基準を 3 号基準という。2 号基準は、排ガスによる影響が最も大きい最大着地濃度地点において敷地境界の基準(1 号基準)を超えないよう、大気拡散の状況を考慮して気体排出口に設定する基準である。計算には、煙突高さ、排ガス量、排ガス温度、周辺建物の高さなどの基礎データが必要である。

表 5-1-4 環境影響の総合的な評価(植物)

| 環境要素 | 影響要因の区分 | 調査項目 | 予測項目 予測方法 | 評価結果 | | 必要な配慮事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|---|--|------------------|---------------------|--|-------|--|--------------|----------------|--|--|-----------------|---|---------------------------|------|---------------|---|--------------------------------|---------------------|-----------------|---|-----------------------------------|------|-------------|---|-----|----------------------|-----------|
| | | | | 施設配置A案 | 施設配置B案 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 植 物 | ○地形改変後の土地及び工作物の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 植物相及び植生の状況 保全対象となる重要な植物種の状況 規制の状況 土地利用の状況 地形及び地質の状況 | <ul style="list-style-type: none"> 予測項目 植物種への影響 予測方法 生息環境の改変等の影響を定性的に推定する方法 予測範囲 事業実施により植物が影響を受けるおそれのある周辺1kmの地域 予測地点 重要な植物種または植物群落等への環境影響を的確に把握できる地点 | 共 通 | | 「丘陵地-自然林」、「丘陵地-雑草草原」に生息する植物、及び「水域」に生育する植物に配慮した施工計画の検討が必要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> 重要な植物種への影響 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">環境類型区分 (植生群落)</th> <th rowspan="2">生育の可能性がある 重要な植物種</th> <th colspan="2">影響の程度</th> </tr> <tr> <th>事業実施 想定区域</th> <th>影響想定地域 (植物)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>丘陵地-自然林 (シラカンパ-ミズナラ群落、ササ-シラカンパ群落など)</td> <td>アカミノルイヨウショウマ、フクジュソウ、シラネアオイ、ヤマシャクヤク、ヤマタニタデ、オオウメガサソウ、ホソバツルリンドウ、カイジンドウ、キヨスミウツボ、カタクリ、サルメンエビネ、クゲヌマラン、トケンラン、フタバラン、ヒロハトシボソウ(計15種)</td> <td>A [面積比 8.2%]</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>丘陵地-人工林 (トマツ植林、カラムツ植林)</td> <td>該当なし</td> <td>D [面積比 0%]</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>丘陵地-雑草草原 (オオヨモギ群落、雑草群落、造成地)</td> <td>シラネアオイ(再掲)、カタクリ(再掲)</td> <td>A [面積比88.7%]</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>緑の多い住宅地・管理草地 (緑の多い住宅地、ゴルフ場・芝地)</td> <td>該当なし</td> <td>D[面積比 3.1%]</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>水 域</td> <td>ノダイオウ、イトモ、タマミクリ(計3種)</td> <td>D[面積比 0%]</td> <td>B</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 記号A：生育環境を改変する場合、影響が生じる可能性があり、現地調査により配慮計画を検討(15種) B：生育環境を改変しないが、工事の影響が生じる可能性があり、濁水の低減が必要(3種) C：生育する可能性があるが生育環境を改変しない D：生育している可能性がほとんどない、または生育可能な環境がない</p> | 環境類型区分 (植生群落) | 生育の可能性がある 重要な植物種 | | 影響の程度 | | 事業実施 想定区域 | 影響想定地域 (植物) | 丘陵地-自然林 (シラカンパ-ミズナラ群落、ササ-シラカンパ群落など) | アカミノルイヨウショウマ、フクジュソウ、シラネアオイ、ヤマシャクヤク、ヤマタニタデ、オオウメガサソウ、ホソバツルリンドウ、カイジンドウ、キヨスミウツボ、カタクリ、サルメンエビネ、クゲヌマラン、トケンラン、フタバラン、ヒロハトシボソウ(計15種) | A [面積比 8.2%] | C | 丘陵地-人工林 (トマツ植林、カラムツ植林) | 該当なし | D [面積比 0%] | D | 丘陵地-雑草草原 (オオヨモギ群落、雑草群落、造成地) | シラネアオイ(再掲)、カタクリ(再掲) | A [面積比88.7%] | C | 緑の多い住宅地・管理草地 (緑の多い住宅地、ゴルフ場・芝地) | 該当なし | D[面積比 3.1%] | D | 水 域 | ノダイオウ、イトモ、タマミクリ(計3種) | D[面積比 0%] |
| 環境類型区分 (植生群落) | 生育の可能性がある 重要な植物種 | 影響の程度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 事業実施 想定区域 | 影響想定地域 (植物) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 丘陵地-自然林 (シラカンパ-ミズナラ群落、ササ-シラカンパ群落など) | アカミノルイヨウショウマ、フクジュソウ、シラネアオイ、ヤマシャクヤク、ヤマタニタデ、オオウメガサソウ、ホソバツルリンドウ、カイジンドウ、キヨスミウツボ、カタクリ、サルメンエビネ、クゲヌマラン、トケンラン、フタバラン、ヒロハトシボソウ(計15種) | A [面積比 8.2%] | C | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 丘陵地-人工林 (トマツ植林、カラムツ植林) | 該当なし | D [面積比 0%] | D | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 丘陵地-雑草草原 (オオヨモギ群落、雑草群落、造成地) | シラネアオイ(再掲)、カタクリ(再掲) | A [面積比88.7%] | C | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 緑の多い住宅地・管理草地 (緑の多い住宅地、ゴルフ場・芝地) | 該当なし | D[面積比 3.1%] | D | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水 域 | ノダイオウ、イトモ、タマミクリ(計3種) | D[面積比 0%] | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

注：影響要因の区分で○は札幌市環境影響評価技術指針に従った選定項目を示す。

表 5-1-5 環境影響の総合的な評価(動物)

| 環境要素 | 影響要因の区分 | 調査項目 | 予測項目 予測方法 | 評価結果 | | 必要な配慮事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|---|---|------------------|---------------------|--|-------|--|--------------|------------------------------------|--|---|-----------------|---|---------------------------|-----------|---------------|---|---|---|-----------------|---|-----------------------------------|--|-------------|---|----|---------------------------|
| | | | | 施設配置A案 | 施設配置B案 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 動物 | ○地形改変後の土地及び工作物の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 動物相の状況 保全対象の状況 生育環境の状況 規制等の状況 土地利用の状況 | <ul style="list-style-type: none"> 予測項目 動物種への影響 予測方法 生息環境の改変等の影響を定性的に推定する方法 予測地点 重要な動物種または生息地への環境影響を的確に把握できる地点 | 共通 | | 「丘陵地-自然林」、「丘陵地-雑草草原」に生息する動物、及び「水域」に生息する動物に配慮した施工計画の検討が必要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> 保全対象となる重要な動物種への影響 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">環境類型区分 (植生群落)</th> <th rowspan="2">生息の可能性がある 重要な動物種</th> <th colspan="2">影響の程度</th> </tr> <tr> <th>事業実施 想定区域</th> <th>影響想定地域 (猛禽類を除く動物) (猛禽類及び生態系)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>丘陵地-自然林 (シラカンパ⁺-ミス⁺ナラ群落、ササ-シラカンパ⁺群落など)</td> <td>エゾモモンガ、テン属の一種、ハチクマ、クマゲラ、エゾサンショウウオ、モンスズメバチ (計6種)</td> <td>A [面積比 8.2%]</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>丘陵地-人工林 (トマツ植林、カラマツ植林)</td> <td>ハイタカ、オオタカ</td> <td>D [面積比 0%]</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>丘陵地-雑草草原 (オオモギ⁺群落、雑草群落、造成地)</td> <td>セアカオサムシ、ツノアカヤマアリ、テラニシケアリ、エゾアカヤマアリ、ウラギンスジヒョウモン (計5種)</td> <td>A [面積比88.7%]</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>緑の多い住宅地・管理草地 (緑の多い住宅地、ゴルフ場・芝地)</td> <td>チゴハヤブサ、ツノアカヤマアリ(再掲)、テラニシケアリ(再掲)、エゾアカヤマアリ(再掲)</td> <td>C[面積比 3.1%]</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>水域</td> <td>カワセミ、ニホンザリガニ、モノアラガイ (計3種)</td> <td>D[面積比 0%]</td> <td>B</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 記号A：生息環境を改変する場合影響が生じる可能性があり、現地調査により配慮計画を検討(11種) B：生息環境を改変しないが工事の影響が生じる可能性があり、濁水の低減が必要(3種) C：生息する可能性があるが人工林や管理草地で利用頻度は少ない D：生息する可能性があるが生息環境を改変しない、または生息する可能性がない</p> | 環境類型区分 (植生群落) | 生息の可能性がある 重要な動物種 | | 影響の程度 | | 事業実施 想定区域 | 影響想定地域 (猛禽類を除く動物) (猛禽類及び生態系) | 丘陵地-自然林 (シラカンパ ⁺ -ミス ⁺ ナラ群落、ササ-シラカンパ ⁺ 群落など) | エゾモモンガ、テン属の一種、ハチクマ、クマゲラ、エゾサンショウウオ、モンスズメバチ (計6種) | A [面積比 8.2%] | D | 丘陵地-人工林 (トマツ植林、カラマツ植林) | ハイタカ、オオタカ | D [面積比 0%] | C | 丘陵地-雑草草原 (オオモギ ⁺ 群落、雑草群落、造成地) | セアカオサムシ、ツノアカヤマアリ、テラニシケアリ、エゾアカヤマアリ、ウラギンスジヒョウモン (計5種) | A [面積比88.7%] | D | 緑の多い住宅地・管理草地 (緑の多い住宅地、ゴルフ場・芝地) | チゴハヤブサ、ツノアカヤマアリ(再掲)、テラニシケアリ(再掲)、エゾアカヤマアリ(再掲) | C[面積比 3.1%] | C | 水域 | カワセミ、ニホンザリガニ、モノアラガイ (計3種) |
| 環境類型区分 (植生群落) | 生息の可能性がある 重要な動物種 | 影響の程度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 事業実施 想定区域 | 影響想定地域 (猛禽類を除く動物) (猛禽類及び生態系) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 丘陵地-自然林 (シラカンパ ⁺ -ミス ⁺ ナラ群落、ササ-シラカンパ ⁺ 群落など) | エゾモモンガ、テン属の一種、ハチクマ、クマゲラ、エゾサンショウウオ、モンスズメバチ (計6種) | A [面積比 8.2%] | D | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 丘陵地-人工林 (トマツ植林、カラマツ植林) | ハイタカ、オオタカ | D [面積比 0%] | C | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 丘陵地-雑草草原 (オオモギ ⁺ 群落、雑草群落、造成地) | セアカオサムシ、ツノアカヤマアリ、テラニシケアリ、エゾアカヤマアリ、ウラギンスジヒョウモン (計5種) | A [面積比88.7%] | D | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 緑の多い住宅地・管理草地 (緑の多い住宅地、ゴルフ場・芝地) | チゴハヤブサ、ツノアカヤマアリ(再掲)、テラニシケアリ(再掲)、エゾアカヤマアリ(再掲) | C[面積比 3.1%] | C | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水域 | カワセミ、ニホンザリガニ、モノアラガイ (計3種) | D[面積比 0%] | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> 予測項目 注目すべき生息地への影響 | 共通 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> 注目すべき生息地：事業実施想定区域には注目すべき生息地は存在せず、影響を回避 具体的な動物への影響：方法書段階以降で配慮計画の検討が必要 環境施策との整合：市の基本的施策における野生生物の種の保存その他の生物の多様性の確保を図る等の方針と整合 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

注：影響要因の区分で、○は札幌市環境影響評価技術指針に従った選定項目を示す。

表 5-1-6 環境影響の総合的な評価(生態系)

| 環境要素 | 影響要因の区分 | 調査項目 | 予測項目 予測方法 | 評価結果 | | 必要な配慮事項 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|--|--|--|----------------|--------------------|---|-------|---------|--|--------------|-------|----------------------------|----------|----------------------------|----------|--------------|-------|---|---------|---------------|--------|--|
| | | | | 施設配置 A 案 | 施設配置 B 案 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生態系 | ○地形改変後の土地及び工作物の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 生態系の状況 重要な自然環境のまとまりの場 | <ul style="list-style-type: none"> 予測項目 重要な自然環境のまとまりの場への影響 予測方法 計画環境類型区分の重ね合わせから推定する定性的な方法 予測地点 重要な自然環境のまとまりの場 | 共通 | | 市の基本的施策における「野生生物の種の保存その他の生物の多様性の確保を図る方針」と整合する | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> 重要な自然環境のまとまりの場への影響 <table border="1"> <thead> <tr> <th>重要な自然環境のまとまりの場</th> <th>名称</th> <th>影響の程度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保安林</td> <td>防風保安林、保健保安林、保健保安林 水源涵養保安林、土砂流出防備保安林、保健保安林</td> <td rowspan="8">直接変更の影響は及ばない</td> </tr> <tr> <td>鳥獣保護区</td> <td>藤の沢、真駒内緑ヶ丘、 羊ヶ丘白旗山鳥獣保護区</td> </tr> <tr> <td>環境緑地保護地区</td> <td>柏ヶ丘、藤の沢、白旗山、 西岡環境緑地保護地区</td> </tr> <tr> <td>すぐれた自然地域</td> <td>西岡周辺</td> </tr> <tr> <td>都市環境林</td> <td>西岡、白旗山（旧市有林舎）、澄川、滝野よしだ、 常盤第一、中ノ沢第一、藤野野鳥の森、真駒内第一、 真駒内第二、南沢第一</td> </tr> <tr> <td>緑保全創出地域</td> <td>山地丘陵地のみどり(里山)</td> </tr> <tr> <td>地域のみどり</td> <td>常盤 1 条 1 丁目、真駒内 332-9、 南沢 1 条 1 丁目、西岡 2 条 12 丁目、 真駒内 199-1、真駒内柏丘 4 丁目、西岡 508-1</td> </tr> <tr> <td>学校林</td> <td>駒岡小学校学校林「こまおかの森」</td> </tr> </tbody> </table> | 重要な自然環境のまとまりの場 | 名称 | | 影響の程度 | 保安林 | 防風保安林、保健保安林、保健保安林 水源涵養保安林、土砂流出防備保安林、保健保安林 | 直接変更の影響は及ばない | 鳥獣保護区 | 藤の沢、真駒内緑ヶ丘、 羊ヶ丘白旗山鳥獣保護区 | 環境緑地保護地区 | 柏ヶ丘、藤の沢、白旗山、 西岡環境緑地保護地区 | すぐれた自然地域 | 西岡周辺 | 都市環境林 | 西岡、白旗山（旧市有林舎）、澄川、滝野よしだ、 常盤第一、中ノ沢第一、藤野野鳥の森、真駒内第一、 真駒内第二、南沢第一 | 緑保全創出地域 | 山地丘陵地のみどり(里山) | 地域のみどり | 常盤 1 条 1 丁目、真駒内 332-9、 南沢 1 条 1 丁目、西岡 2 条 12 丁目、 真駒内 199-1、真駒内柏丘 4 丁目、西岡 508-1 |
| 重要な自然環境のまとまりの場 | 名称 | 影響の程度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 保安林 | 防風保安林、保健保安林、保健保安林 水源涵養保安林、土砂流出防備保安林、保健保安林 | 直接変更の影響は及ばない | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 鳥獣保護区 | 藤の沢、真駒内緑ヶ丘、 羊ヶ丘白旗山鳥獣保護区 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 環境緑地保護地区 | 柏ヶ丘、藤の沢、白旗山、 西岡環境緑地保護地区 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| すぐれた自然地域 | 西岡周辺 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 都市環境林 | 西岡、白旗山（旧市有林舎）、澄川、滝野よしだ、 常盤第一、中ノ沢第一、藤野野鳥の森、真駒内第一、 真駒内第二、南沢第一 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 緑保全創出地域 | 山地丘陵地のみどり(里山) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地域のみどり | 常盤 1 条 1 丁目、真駒内 332-9、 南沢 1 条 1 丁目、西岡 2 条 12 丁目、 真駒内 199-1、真駒内柏丘 4 丁目、西岡 508-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校林 | 駒岡小学校学校林「こまおかの森」 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> 予測項目 地域を特徴づける生態系への影響 予測方法 計画と環境類型区分の重ね合わせから推定する定性的な方法 | 共通 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> 地域を特徴づける生態系への影響 <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然環境類型区分</th> <th>事業実施想定区域における面積比(%)</th> <th>指標種</th> <th>影響の程度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>丘陵地—自然林</td> <td>8.2</td> <td>エゾリス、コエゾゼミ</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>丘陵地—雑草草原</td> <td>88.7</td> <td>ホオジロ、ハネナガキリギリス</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>緑の多い住宅地・管理草地</td> <td>3.1</td> <td>シジュウカラ</td> <td>B</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 記号 A : 生息環境を改変する場合、影響が生じる可能性があり、現地調査により対応する計画を検討 B : 面積は小さく、周辺に同様の環境が広く分布するため、影響は比較的小さい</p> <ul style="list-style-type: none"> 重要な自然環境へのまとまりの場：直接変更の影響は及ばない 地域を特徴づける生態系：方法書段階以後に配慮計画の検討が必要 環境施策との整合：市の基本的施策における野生生物の種の保存その他の生物の多様性の確保を図る方針と整合 | 自然環境類型区分 | 事業実施想定区域における面積比(%) | 指標種 | 影響の程度 | 丘陵地—自然林 | 8.2 | エゾリス、コエゾゼミ | B | 丘陵地—雑草草原 | 88.7 | ホオジロ、ハネナガキリギリス | A | 緑の多い住宅地・管理草地 | 3.1 | シジュウカラ | B | 共通 | | |
| 自然環境類型区分 | 事業実施想定区域における面積比(%) | 指標種 | 影響の程度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 丘陵地—自然林 | 8.2 | エゾリス、コエゾゼミ | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 丘陵地—雑草草原 | 88.7 | ホオジロ、ハネナガキリギリス | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 緑の多い住宅地・管理草地 | 3.1 | シジュウカラ | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

注：影響要素の区分で、○は札幌市環境影響評価技術指針に従った選定項目を示す。

表 5-1-7 環境影響の総合的な評価(景観、人と自然との触れ合いの活動の場)

| 環境要素 | 影響要因の区分 | 調査項目 | 予測項目 予測方法 | 評価結果 | | | | 必要な配慮事項 | | | | |
|-----------------|-------------------|---|---|---|---|---|--|--|---|---|--|---|
| | | | | 施設配置 A 案 | | 施設配置 B 案 | | | | | | |
| | | | | 煙突高 100m | 煙突高 130m | 煙突高 100m | 煙突高 130m | | | | | |
| 景観 | ◎地形変更後の土地及び工作物の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 地域景観の状況 主要な景観資源 主要な眺望点 規制等の状況 土地利用の状況 | <ul style="list-style-type: none"> 予測項目 地域景観の変化 予測方法 土地利用や事業計画を基にした定性的に推定する方法 | 近景域 | <ul style="list-style-type: none"> 地域景観の変化が小さい | <ul style="list-style-type: none"> 煙突高さ 100m よりも変化が認識できる | <ul style="list-style-type: none"> 景観の変化は比較的小さい | <ul style="list-style-type: none"> 駒岡小、駒岡団地における景観が変化する | 周辺景観に調和したデザインの採用、塗色の工夫等により、景観に及ぼす影響を低減することが必要 | | | |
| | | | | | 遠景域 | <ul style="list-style-type: none"> 駒岡小、駒岡団地の変化はB案より低減可能 周辺景観に調和したデザイン等の採用により、更に影響を低減することが可能 | | <ul style="list-style-type: none"> 駒岡小、駒岡団地の変化はA案よりも大きい | | | | |
| | | | | 眺望の変化の程度 | | <ul style="list-style-type: none"> 予測項目 代表的な眺望点からの眺望の変化 予測方法 ア.完成予想概図を合成したモニタージュを作成し、変化の程度を定性的に予測する方法 イ.垂直見込角を求め、他事例を参考に見え方の変化を定性的に予測する方法 | 札幌市 保養センター駒岡 | <ul style="list-style-type: none"> 煙突高さ、施設配置にかかわらず新工場は視認できず 眺望できる景観資源なし | | <ul style="list-style-type: none"> 硬石山方向の眺望を改善、藤野方向のスカイラインを切断 | | |
| | | | | | しらかばゴルフ場 | | <ul style="list-style-type: none"> 煙突高さ 100m の方が影響を低減 | <ul style="list-style-type: none"> 煙突高さ 100m よりも稜線上部に大きく出現 | | <ul style="list-style-type: none"> 煙突高さ 100m の方が影響を低減 | <ul style="list-style-type: none"> 煙突高さ 100m よりも稜線上部に大きく出現 | |
| | | | | | 駒岡小学校 | | <ul style="list-style-type: none"> B案よりも眺望変化が小さい | | | <ul style="list-style-type: none"> A案よりも眺望が変化する | | |
| | | | | | 駒岡団地 | | <ul style="list-style-type: none"> 煙突高さ 100m はほとんど変化しない | <ul style="list-style-type: none"> 煙突高さ 130m はわずかに眺望が変化する | | <ul style="list-style-type: none"> 煙突高さ 100m は | <ul style="list-style-type: none"> 煙突高さ 130m では圧迫感が生じる可能性あり | |
| | | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> B案よりも眺望変化が小さい | | | <ul style="list-style-type: none"> A案よりも眺望が変化する | | |
| | | | | | 藻岩山展望台 | | <ul style="list-style-type: none"> 煙突高さ、施設配置にかかわらず眺望は変化なし | | | | | |
| | | | | | 見え方の変化 | | 札幌市 保養センター駒岡 | <ul style="list-style-type: none"> 施設配置、煙突高さにかかわらず、施設は視認できず、眺望は大きく改善 | | | | |
| | | | | | | | しらかばゴルフ場 | <ul style="list-style-type: none"> 現況と変化なし | | <ul style="list-style-type: none"> 気になる程度に増大 | <ul style="list-style-type: none"> 樹林に隠れ改善 | <ul style="list-style-type: none"> 樹林に隠れやや改善 |
| | | | | | | | 駒岡小学校 | <ul style="list-style-type: none"> 現況と同程度 | | <ul style="list-style-type: none"> やや大きく見える B案よりも変化は小さい | <ul style="list-style-type: none"> 気になる程度に増大 | <ul style="list-style-type: none"> 圧迫感を受ける可能性有 A案より明確に変化大 |
| | | | | | | | 駒岡団地 | <ul style="list-style-type: none"> 現況からやや改善 | | <ul style="list-style-type: none"> 現況と同程度 | <ul style="list-style-type: none"> 現況と同程度 | <ul style="list-style-type: none"> 気になるが、圧迫感は受けにくい程度に変化 |
| | | | | | | | | 共通 | | | | |
| | | | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 環境施策との整合：施設配置、煙突高さ及び周辺環境に調和したデザイン等の配慮により、法や条例との整合が可能 アンケート等による客観的評価：方法書段階で調査及び予測方法を検討 | | | | |
| 人と自然との触れ合いの活動の場 | ○地形変更後の土地及び工作物の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 野外レクリエーション地及び日常的な触れ合いの活動の場の分布状況 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の状況及び利用環境の状況 | <ul style="list-style-type: none"> 予測項目 ア.人と自然との触れ合いの活動の場への直接的な変化の可能性 イ.利用環境の支障の有無及び場の特性の変化の可能性 ウ.到達時間等のアクセス状況の変化の可能性 予測方法 利用環境と変更区域等との重ね合わせにより定性的に予測する方法 予測地点 主要な触れ合い活動の場 | 共通 | | | | 主要な触れ合い活動の場に影響を与えないための景観及び工事等の配慮事項が必要 | | | | |
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> 直接的な変化：主要な触れ合いの活動の場は、事業実施想定区域内に存在せず、喪失や変更の影響なし 利用環境の支障：事業計画により利用環境に新たな支障が生じる可能性は小さい 場の特性の変化：景観の変化は景観の項で評価、精進川には排水しない計画から水辺利用環境の支障なし アクセス状況の変化：搬出入車両台数、経路の変更はほとんどないため変化なし | | | | | | | | |
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> 環境施策との整合：人と自然との触れ合いの活動の場に与える影響はほとんどなく、周辺地域のみどり等を保全する計画から、市の方針等とも整合 | | | | | | | | |

注：影響要因の区分で、○は札幌市環境影響評価技術指針に従った選定項目を示し、◎はそのうち重点項目とした項目を示す。

表 5-1-8 環境影響の総合的な評価(温室効果ガス)

| 環境要素 | 影響要因の区分 | 調査項目 | 予測項目 予測方法 | 評価結果 | | | 必要な配慮事項 | | | | |
|--|--------------|---|--|-------------------------------------|--------|----------------------|--|--------|---------|------------------------------|--------------|
| | | | | 施設配置A案 | 施設配置B案 | | | | | | |
| 温室効果ガス | ○施設の稼働(排出ガス) | ・温室効果ガス排出量、エネルギー使用量に係る原単位 ・排出低減対策、エネルギー使用量低減対策の実施状況 ・環境保全型地域冷暖房事業等の状況 ・温室効果ガスに係る環境施策の目標等 | ・予測項目 施設の稼働に伴うCO ₂ 換算温室効果ガス排出量 ・予測方法 「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル Ver.3.5」に基づき温室効果ガスの排出量を算出する方法 ・予測地点 温室効果ガスの状況を的確に把握できる地域 | 共通 | | | 更なるごみの減量化やリサイクル化の推進、電気使用量の削減等による温室効果ガス排出量の低減 | | | | |
| | | | | ・施設稼働に伴うCO ₂ 換算温室効果ガス排出量 | | | | | | | |
| | | | | 予測時期 | 物質 | 単位 | | 排出量 | 地球温暖化係数 | 温室効果ガス量(tCO ₂ /年) | 合計 |
| | | | | 現況 (平成25年度) | 二酸化炭素 | t-CO ₂ /年 | | 79,996 | 1 | 79,996 | |
| | | | | | メタン | t-CH ₄ /年 | | 0.12 | 21 | 2.52 | |
| | | | | | 一酸化二窒素 | t-N ₂ O/年 | | 7.04 | 310 | 2,182 | |
| | | | | 予測年度 (平成36年度) | 二酸化炭素 | t-CO ₂ /年 | | 69,114 | 1 | 69,114 | 71,110 (91%) |
| | | | | | メタン | t-CH ₄ /年 | | 0.11 | 21 | 2.31 | |
| | | | | | 一酸化二窒素 | t-N ₂ O/年 | | 6.43 | 310 | 1,993 | |
| | | | | 平成 36 年度温室効果ガス量－平成 25 年度温室効果ガス量 | | | | | | -7,072 (-9%) | |
| ・排出量：温室効果ガスの排出量を平成 25 年度（2013 年）から約 7,100t-CO ₂ 削減することが可能 ・環境施策との整合：更なるごみの減量やリサイクル化の推進、効率的エネルギー回収システムの導入による電気使用量の削減等の取り組みにより、目標値との整合を図ることが可能 | | | | | | | | | | | |

注：影響要素の区分で、○は札幌市環境影響評価技術指針に従った選定項目を示す。